

平成27年度第1回リニモ沿線地域づくり会議 会議概要

(文責：事務局)

日 時：平成27年8月25日（火）午前10時～正午

場 所：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室1

出席者：委員12名、オブザーバー2名、事務局19名

(開会)

1 あいさつ

○愛知県振興部長

県と沿線市では「リニモ沿線地域づくり構想」を平成21年に策定し、様々な取組を進めてきたが、今年はその取組の目標年次を迎える。

本日の会議では、地域づくりの現状についてご報告するとともに、今後5年間の地域づくりにあたり、どのような形で構想を推進していくのかについて、委員の皆様にはそれぞれのお立場からご意見を賜りたい。

2 議題

(1) リニモ沿線の地域づくりに向けた最近の取組状況について

○事務局から資料1～6の説明

○愛知高速交通㈱から資料7の説明

【委員・事務局発言要旨】

○瀬口委員長

マナカもいよいよ実現し、リニモの乗降客数も今年度に入ってから万博以降、月間で良い数字を出しているということであった。長久手市の商業施設も具体的な方向が見えてきたと思う。

(2) リニモ沿線地域づくりの今後の重点施策について（意見交換）

○事務局から資料8、9の説明

【委員・事務局発言要旨】

○松宮委員

資料9の重点施策のうち、Ⅱ地域活動の活性化 ⑥沿線の大学・学生等による地域連携の推進についてだが、今年度に入ってから愛知淑徳大学の学生を中心にボランティアのネットワークを作る動きがあり、すでに5、6回会合を重ねている。長久手市内の大学だけでなく、日進にある愛知学院や豊田にある愛工大も含めて、リニモ沿線のまちづくりに参加しようという学生が中心となっている。

一番課題なのは、8月、2月に学生が定期券を持っていないので来なくなってしまうということ。長久手古戦場のまちづくりセンターで会合をやっているが、毎回約700円かかるので、会合を藤が丘でやるとか、そもそも大学に来ないとか、イベントをやるにしても8月は外して、ということになる。

そこで、リノモテラスの整備では、学生が集まれる場所、地域へ出て行ける場所、逆に住民から学生へ要望を出せるような拠点ができれば良いと思う。

もう1つは、学生が格安で定期券を購入できるよう、長期休暇用定期があると、学生も大学や長久手で活動できるようになるのではないか。そもそもゼロの学生の乗車を増やすことなので会社として損ではないし、学生の活動の機運は高まっている。学生が地域づくりに参入しやすくなり、交流人口も増えるという意味でも検討の余地がある。

○瀬口委員長

リノモテラスへの要望があったが、現在はどのような状況か。

○長久手市

今年度、基本的な構想、設計に入る段階ということで、学生、NPO、企業、地域の組織が集えるというコンセプトで考えているところだが、まだ話し合いのスタートを切ったばかりなので、具体的に申し上げることができない。ただ、ご指摘いただいた内容は大事なことなので、その方向で話し合いが進んでいくかなとは思っている。

○瀬口委員長

瀬戸市も尾張瀬戸駅前に施設をつくったが、うまくいっているのか。リノモテラスが参考にするようなことはあるか。

○瀬戸市

パーティセトでは、大学のコンソーシアム等で交流を深める場となったり、開放されているスペースで高校生等が勉強したり、という事例がある。

集客しやすく、拠点として利用できる場所となっているので、そういう意味では成功しているのかなと思う。

○瀬口委員長

愛知県立大学の名古屋駅前のサテライトキャンパスは、利便性が良いということもあって、稼働率が高い。瀬戸も含めて先行しているところを参考にして、地域のまちづくりに貢献できるようなものを作ってほしい。

定期については、何か良いアイデアはあるか。

○島田委員

年間定期を作るという方法がある。今のリノモは年間定期がないので、設計段階で年間定期を作れるようにしておくといい。複雑なシステム改修とは思えない。学生もそうだし、福祉関係の乗車券は大体年間発行になる。また、年間定期の場合、落とすリスクはあるが、今は記名式のICカードだから再発行ができる。後は学生用にどのくらいの割引率で売り出せるのかという値段の話になると思う。

○井沢委員

1年定期も有効かと思うが、2ヶ月定期も本学からみると有効だと思う。4～6月までの定期券を買ってもらった後、7月から2ヶ月定期を買ってもらえば、8月の休みに入ってから大学に来ることも増えるだろうし、大学に来た帰りにどこか寄っていかうか、

ということもあるだろう。難しいとは思いますが、柔軟に色々な定期が組めると良いので、今後の検討としてほしい。

○鈴木委員

資料9の訪れたい沿線づくりということだが、今年の春に台湾からのインバウンドを瀬戸市の中心市街地に10本くらい受けた。そのとき、瀬戸の次に行く場所はどこかと聞くと、まずリニモに乘車して、その翌日は港のリニア鉄道館へ行くとのことだった。

資料にも産業観光、のりもの観光、リニモの社会見学受入拡大の検討とあり、観光としてまだまだ拡大できると思うが、連携がないとうまくいかない。

和歌山県電鉄では、鉄道自体が観光資源になり、台湾と中国の観光客が捌ききれないくらい来ている。インバウンドで愛知がどうやって惹き付けをしていくのかということ、瀬戸や犬山も連携して頑張っているが、そこにリニモが加わっていくチャンスがないわけではない。リニモ社会見学もそういう人達に向けて受入の敷居を低くしたり、ぼぶかる聖地だということなら、コミックマーケットを沿線でやったりと、どうやったらリニモが観光資源として活かせるのか、もう一工夫が連携の中で必要になってくる。

○石黒委員

資料9の重点施策のうち、I自然に配慮したコンパクトなまちづくり ③森林・農地等の緑の適正な維持管理についてだが、土地を開発すれば優良農地が段々減っていくという中で、沿線のまちづくりは、農との触れ合いをどうしていくのか。また、遊休農地や耕作放棄地への対策は、この中には盛り込まれているのか。区画整理等で有効な農地を市街化していることと思うが、住みよいまちづくりには農との触れ合いも必要だと思うし、福祉の面でも、土に触れ合っていると高齢者の方も生きがいがあると、色々な統計や、利用者から聞いている。そういったところの考えがあれば聞きたい。

○長久手市

長久手市の都市計画の中でも、農地を保全する部分と開発を促進していく部分をバランスよくマスタープランを作りながらやっていく。また、遊休農地を活かせるよう、市では田園バレー事業を展開し、都市部の新しい住民とその地に住んで農業を営んでいる方が畑を作って交流してもらおうという事業もある。ただ、立場上、農地の具体的な施策をこの場で申し上げることが難しいが、必要性はあると思っている。

○島田委員

「交通まちづくり」というキーワードを大きく入れてほしい。この会議は、まちづくりと交通を一緒に考えていく場であり、全国的にみてもとても素晴らしい取組だと思う。それを一言で言えば、交通まちづくりということである。

2点目だが、エコモビという言葉に含まれているかもしれないが、公共交通への転換とか、マイカーからの転換とか、もう少しクリアな言い方を加えてもらえないか。交流人口を増やしていこうという方向は良いが、マイカーでみえる方が多い。地元の道路は容量を超えており、朝と、土日は渋滞が激しい。このままだと交流人口が増えて欲しくないという声が地元から出てきてしまうかもしれないので、はっきりとリニモ・公共交通への転換と打ち出していただけたらと思う。

具体的に言うと、以前からこの会議で申し上げているモリコロパークの駐車料金について、今回、試験的に料金を変更していただけるようだが、恒久的にやってほしいと思っている。今回の重点施策ではそれが読めるところがないので、検討材料の1つとして読めるようにしてほしい。

もう1つは、人材育成という課題にも触れていただけないかと思う。市民の立場で何かこの資料に書かれたことをやろうとしても、人材が足りない。学生の皆さんは頑張っているが、交通まちづくりは本当に難しい分野で、市民の人材が育たないし、行政の方も担当の方がどんどん異動されるので、人材育成は大きな課題だと思う。市民、学生、行政、研究者の方の協力も含めて一緒に人材育成する、ということを入れてほしい。

○瀬口委員長

人材育成については、大学が沢山あるので、東大の大学院でやっているような、まちづくりの社会人向けの特別コースを愛工大とか淑徳大学とかでやっても良いかと思う。

公共交通については、エコモビリティが良いか、公共交通の転換が良いかということで、リノモがあるから公共交通の転換だと差別化ができないからエコを使っているのかもしれないが、ご検討をいただきたい。

○清水委員

リノモテラスについてだが、大学で講演会があった際にリノモテラスの担当者が来たことがあり、リノモ沿線地域づくり構想を知らないと言われた。情報の共有がされていないのか心配になったが、どうなのか。

もう一つは、学生やNPOといったリノモテラスを使う主体の方達の意見をしっかりと取り入れてほしい。交通費を払ってでもそこに来たくなる施設にしないと、施設が使われなくなってしまふ。建築をやっている学生達を入れて提案してもらおうとか、利用する方と一緒にやっていくということのプロセスに組み込んでもらいたい。

○瀬口委員長

昔のことだが、名古屋のサッポロビール工場の跡地をどうするかという話があったときに、名古屋市内の5つか6つの大学で提案をしたことがあった。そういう提案をしてもらうというのも皆さんの意見を聞く1つ。

そのまま実現することは難しいかもしれないが、そういう盛り上げ方をするのも良いし、主体者の意見を取り上げる会を持っていただくということかと思う。

また、長久手市の中で情報が共有されていないなら、愛知県の担当者が沿線4市を回ってリノモ沿線地域づくり構想について説明して回るなど、皆で共有される仕組みを作ってほしいと思う。

○前田委員

藤が丘の駅等でマンションデベロッパーとして開発をしているが、購入者や購入を検討しているお客様からいただく意見として、なぜ長久手市に来るかという愛知県で子育て環境が1番だから、と言われる。色々な形でそう発表されていることが刺激となって、長久手市も1つ候補となり、あとは価格とか駅等で総合判断される。

そこで、長久手市がどういう取組をされた結果、愛知県内で子育て環境が1番になられたのかを教えていただきたい。リノモ沿線の各市町村に同じような取組をしてもらえれば、

リニモ沿線は若いファミリーにとって集まりやすい環境が整い、住宅デベロッパーとしても開発がしやすく、住みたい沿線づくりという点でも新しい味付けができると思う。

○長久手市

長久手が一番歴史をかけて頑張ってきたのは、昭和50年代から名古屋市側より順次、区画整理を民間主導で行い、計画的にハード面のまちづくりを進めてきたこと。また、大学がそれに合わせて立地していただき、若い方が多く来るなど、関心を持っていただいた。現在は新しい市民の方が増えているので、つながりとかそういう部分に力を入れていかないといけないと考えている。

また、子育て関係の施策や施設は、急激な人口増で追いつくのが正直目一杯の状況である。ただ、将来は全国的には人口減少だが、長久手と日進というこのエリアだけは人口増と予測されるので、長い眼で見た施策を今取り組もうとしているところ。後発組の幸いだったところはあるかもしれないが、人口増に合わせた形でまちづくりができてきていると考えている。

なお、全国的には快適度が上位1位、2位と言われるが、統計上の数値であり市民の皆さんは実感がないかもしれない。モリコロパークの面積が算入されることで快適度が上がっていることも否定しえないが、それはプラスにとらえて利活用できればと思っている。

○瀬口委員長

私は待機児童ゼロには名目と実質があると思っていて、当然実質ゼロを目指していかなければならない。そうでないと、第2子、第3子が生まれたときに突然問題が起こるので、子育て環境が良いとはいえないし、それが良いと言われるというのは、ハードではなくソフトの対応である。この点を次回また教えていただきたい。

○土居委員

豊田市に住んでいるが、環境への取組が先進的であり、色々なところで実証実験も行われている。このリニモ沿線地域も愛・地球博から10年という節目の年であり、愛・地球博の、環境を壊さずにそのまま残そう、といった理念をこの沿線地域で活かしていくよう、重点施策には「自然に配慮したコンパクトなまちづくり」などの視点につながっているものと思う。そこで、愛・地球博記念公園や自然を残した色々なところがあるというだけでなく、住民が住む家や交通手段も環境に優しいということで、スマートハウスとかEV、HVをモデル的に設置する。そのために、県や市が補助をして、長期的なビジョンを描きながら推進していったらどうかと思う。

○瀬口委員長

区画整理のところは中々難しいかもしれないが、長久手市は当然先行事例としてやろうとしていると思う。民間開発では、他の地域ではやられているので、この地域で先行的にやっていただくことはできないものだろうか。

○前田委員

全国では先行事例でスマートシティなど色々な形のものが推進されているが、デベロッパーの立場で考えたとき、そういった整備をして、そのコストを吸収してもお客様に買っ

ていただけるくらいの土地代かどうかというのが大きな要素である。未開発の土地をうまく利用してやれば、投資してもお客様に買っていただき、回収できるかもしれないが、今現在の長久手市内、特にリニモ沿線の完全宅地の金額では合わないという感じがする。

長久手市内の戸建てだと1区画で大体5～6千万前後の価格であるが、我々が知多半島の根元でやっている戸建ての購入者層は、トヨタ系の方でも4千万円台。今の長久手の区画で色々な先進技術を入れてやると、マーケットには合わないかなと思う。もちろん、補助が入ればまた話は変わる。

○矢嶋委員

近鉄不動産はマンション、戸建両方事業化しているが、リニモ沿線でマンション分譲事業、戸建分譲事業が成り立つかという話でいくと、非常に難しい。

藤が丘まで来て、そこからリニモに乗り換えてマンション戸建に住むというのは中々難しい。その理由の1つは、建築費等が非常に高騰して、高止まりしているからである。以前は専有坪単価が100万、110万円なら郊外でもそこに住もうという方がいたが、今は土地代がゼロでも140万から150万という値段になってしまうので、郊外マンション事業は成り立たなくなっている。杵ヶ池のエリアなどであれば可能性はゼロではないが。

先ほどのエコの戸建の話でも、商売が成り立つエリアという前提があって、そこにどう付加価値を付けるかという発想であり、逆にはならない。

○瀬口委員長

資料9のIV研究開発機能の充実だが、先般の新聞では、国の研究機関を全国の各地域が誘致合戦のようなことをしていて、愛知県も手を挙げているということ。愛知県に来る場合には、リニモ沿線も候補地の一つになると思うので、こういうレベルの高いものも積極的に進めてほしい。

一方、観光やイベントという面では、豊田のスポーツイベント等は何か関係はあるか。

○愛知県地域政策課

大規模なイベントでは、2019年にラグビーワールドカップがトヨタスタジアムで開催される。聞くところによると、ラグビーワールドカップのお客さんは富裕層が多く、長期間滞在されるということなので、そういう方達を周辺の観光に連れ出そうと考えている。

愛知県も観光元年ということで、色々な観光施策を打ち出している。先に話があったように、乗物自体を観光資源として利用し、名古屋空港は航空機の博物館を考えており、トヨタの産業技術記念館、自動車博物館などもある。色々な施設を連携させて、観光業者を巻き込んで、様々なツアー企画で観光に結び付けていこうと考えている。

また、2020年の東京オリンピックや、2020年に愛知県での開催を提案しているフットサルワールドカップなどのお客さんを捉えて、県内の色々なところに観光で連れていきたいということも考えている。

○松宮委員

この3月まで長久手の観光交流基本計画に携わっており、よく藤が丘の方から来る人を想定されているが、愛・地球博記念公園から長久手、日進や豊田へ行く人はけっこう多い。

車の場合には行けるが、リニモで来て瀬戸や、長久手のあぐりん村、豊田中心部へどうやって行くのかは、公園を歩いていても、パンフレットを見ても中々わからない。

沿線4市で協力して、リニモで来て公園を拠点に一体を歩き回ったり、移動したりできるような資料やパンフレットがあると良い。その際、公園西、陶磁資料館南、八草駅とかにもパンフレット等を置き、コースみたいなものがあると移動ができると思う。

○瀬口委員長

実現できそうな話なので、ぜひやっていただきたいと思う。すでに駅に置いてあるものを各行政範囲内にしないで、交通と観光をセットにして情報を出すということ。

○愛知県公立大学法人清水総務部長（河合委員代理）

愛知県立大学、芸術大学を運営しているが、留学生が多い大学である。インバウンドを考えると、留学生は短期間このエリアに住み、母国へ帰るので、留学生向けの多言語でのPRなどをやっていただくと、留学生の方に母国でこのエリアを宣伝していただくきっかけになると思う。

もう一つは、エリア内の回遊性のきっかけづくりである。例えば、モリコロパークは、日本のぼぶかる聖地であるとか、古戦場を中心とした歴史、これにちなんだ名所だとかをつなげる散歩ルートを作ると、色々な点が面につながるのかなと思う。

本年度、愛知県立大学の情報科学部の学生が中心となって、スマートフォンの位置情報を利用したインGRESというお散歩ゲームで実験をやっている。

このゲームは、現場に行ってポイントをチェックするものであり、1つの現場へ行くと次のポイントへ案内、誘導される。岩手県や横須賀の方でもこういうゲームを使って、域外から若い人を呼び込むのに成功している事例もあるので、回遊ルートづくりのときにはこういう若者目線で新しいシステムも検討していただければ良いと思う。

○瀬口委員長

皆さんからそれぞれ意見をいただけたと思う。これまでは沿線の人口も着実に増えてきて、イベントもやられ、リニモの乗降客数も順調に伸びてきている。重点施策は、この沿線のまちづくりをしっかりと進めるため、今後5年間の方針としてやっていきたいということで、12月に整理をしてご意見いただくということである。

3 その他

【事務局】

今、瀬口委員長から話があったように、例年、第2回の会議は3月に開催していたが、リニモ沿線地域づくりの今度の重点施策については、来年1月にとりまとめたいて考えており、次回は、12月頃に開催し、その内容についてご議論いただきたい。

(閉会)